

Dialogical Expertise Intensive Workshop

ダイアログ実践の哲学と専門性（エキスパート・スキル）を学ぶ研修会

Becoming Dialogical via Deliberate Practice

2022年 11月 12~13日 対面・ライブ方式

様々な支援・援助領域でのダイアログ文化の醸成と普及を目指し、オープンダイアログとアンティペーション・ダイアログの哲学と実践を基本とし、**Deliberate Practice**の方法論を参考にして **Dialogical Expertise**（ダイアログ実践の専門性：臨床姿勢とエキスパート・スキル）を共に学ぶための、体験と実習（練習）ベースの研修会です。

オープンダイアログは、フィンランドの西ラップランドで発展し当事者や家族などのネットワークとの開かれたダイアログによって、精神的な危機状況を乗り越えようとする画期的なアプローチ。アンティペーション・ダイアログは、同じフィンランドで福祉や教育領域での実践法として開発され、早期ダイアログと未来語りを特徴として、地域行政、組織の活性化などでも、幅広く応用されているダイアログ実践です。

Deliberate Practice は、エキスパート研究で有名な心理学者アンダース・エリクソンによる、超一流の音楽家やアスリートたちに関する観察研究から導き出されたもので、臨床家としてのスキルアップ、自己研鑽、エキスパートを目指す方々には必須のそして最適なトレーニングの方法論でしょう。

また、ノルウェーの Birgit Valla の **Beyond Best Practice** の組織から地域までの改革実践、イギリスの Lucy Johnstone らの **Power Threat Meaning Framework** についても紹介するつもりです。

Dialogical Expertise とはダイアログの専門性、あるいはそのための専門的技術・技能のことです。複雑な状況でクライアントや家族とのダイアログを行い、協力的に援助を進めるためには、専門知識だけでなく、細やかなエキスパート・スキルが必要でしょう。そして、様々な支援・治療の場面のリアルな実践で、優れた治療効果を得るためには、**Deliberate Practice**（意図的な訓練・練習）によって、ダイアログの専門スキル **Dialogical Expertise** の習得と、その向上のための努力を続けることが必要、不可欠でもあります。

ブリーフセラピー、オープンダイアログ、アンティペーションに関して多少なりとも知識、経験をお持ちの方が対象ですが、それにこだわることなく、さらなる実践的な臨床・援助能力のレベルアップ、**Becoming a Better Dialogist** を目指す方々なら大歓迎です。

効果的なダイアログ実践に向けたスキルアップ、またそれを現場での活用・応用につなげるための体験実習、ロールプレイのセッションなども取り入れる予定です。

ダイアログ文化の醸成と実践のための研修会

2022
#7

講師：白木孝二 Nagoya Connect & Share 代表
RDI® Program Certified Consultant 臨床心理士
<http://www.nagoya-connect.jp/>

日時：2022年11月12日~13日（土・日） 対面・ライブ方式 各10:00~17:00

会場：Nagoya Connect & Share 名古屋市東区葵一丁目4番34号 双栄ビル3F北
地下鉄東山線 新栄町下車 葵町交差点を北へ徒歩3分 詳しくは別紙地図を参照

参加対象：医療、福祉、臨床心理、教育、ビジネスなどの領域で、相談支援活動に携わっている方。ある程度、実践経験をお持ちで自身の臨床能力向上を望まれる方。

定員8名：事前申し込みに限ります。今回はコロナ対策の観点から定員を減らしています。

参加費：36,000円（1日のみ参加の場合は20,000円）

参加可能の確認連絡をしますので、その後に口座に振り込んでください。

振り込み先 三菱UFJ銀行 覚王山支店 普通口座 3603322 白木孝二

申込先：「必要事項」を記入の上、e-mailにてお申し込み下さい。

E-mail: kshiraki-connect@nifty.com

〔必要記入事項〕

- ① 氏名（ふりがな）
- ② 職種、立場（ex. 医療、心理、福祉、教育、ビジネス関係 etc.）
- ③ ブリーフセラピー、ダイアログ実践などの知識、経験について
- ④ E-mail アドレス（ご連絡は主として E-mail にてさせていただきます）
- ⑤ 連絡先（自宅・職場のどちらか／住所・Tel/Fax 番号、緊急連絡用に携帯番号）
- ⑥ 領収書が必要か否か（必要な場合は宛名も）
- ⑦ 研修会に期待すること、特に取り上げて欲しいテーマなど

その他 補足事項

- ・12日の夜には、懇親会を予定しています。参加者同士の交流、情報交換などの機会にできればと思います。参加希望の方は事前にお知らせください。
- ・2日間通しての参加が難しい方は、1日参加も可能です。申し込み時にその旨お伝えください。

講師略歴

- 現職 Nagoya Connect & Share 代表。RDI® Program Certified Consultant 臨床心理士
名古屋市児童福祉センターを経て、2007年より現職へ
- 1991年 米国、ウィスコンシン州、ミルウォーキー Brief Family Therapy Center の
Residential Training に参加。Steve de Shazer, Insoo Kim Berg から直接指導を受ける。
- 1999年 日本ブリーフサイコセラピー学会より学会賞受賞
- 2005年 米国、テキサス州、ヒューストンの Connections Center より
RDI® Program Certified Consultant 資格取得
- 2016年 ~ Open Dialogue Network Japan (ODNJP) 運営委員
- 2017年 ~ NPO 法人 ダイアログ実践研究所(DPI) 理事
- 2019年 ~ 琉球ダイアログ・プロジェクト (RDP) 専任講師

論文・著書（分担執筆）など

- ブリーフセラピー入門 宮田敬一 編 1994 金剛出版
- 解決志向ブリーフセラピーの実際 宮田敬一 編 1997 金剛出版
- 「Steve de Shazer の業績と貢献」 ブリーフサイコセラピー研究 第14巻 2005
- 「ソリューション・フォーカスト・アプローチ再訪」 東豊 編 こころの科学 176号
特別企画 家族療法とブリーフセラピー 2014 日本評論社
- 「ポスト・ソリューション(Post SFA)における私的な温故知新」
特集・「家族療法」温故知新 家族療法研究 2014 Vol. 31. No. 3 金剛出版
- 「オープンダイアログの対話実践、そして援助者の在り方について」 精神看護
2015. 11 医学書院
- 「開かれた対話—セラピストのあり方」 臨床心理学 第15巻5号 2016. 09 金剛出版
- 「オープンダイアログと言う会話のつぼ」 ナラティブとケア 第8号 2017. 01 遠見書房
- 「フィンランドからのもう一つの贈り物：未来語りのダイアログ」 精神療法 Vol. 43. No. 3
2017. 06 金剛出版
- 「未来語りのダイアログ—もう一つの基本プロセス」 精神科治療学 2018. 33(03) 星和書店
- 「オープンダイアログを心理支援に活かすには」 臨床心理学 19巻5号 2019. 09 金剛出版
- 「ダイアログ実践の哲学と臨床姿勢」 オープンダイアログ 実践システムと精神医療
石原、斎藤 編 2022 東京大学出版会
- 「ダイアログ」 臨床カアアップのコツ：ブリーフセラピーの発想 日本ブリーフサイコセラピー学会編 2022 遠見書房

訳書（共訳）

- 「飲酒問題とその解決」 I・バーグ、S・ミラー著 斎藤学 監訳 1995 金剛出版
- 「安全のサインを求めて」 A・ターネル、S・エドワーズ著
白木、井上、井上監訳 2004 金剛出版
- 「自閉症革命」 M・ハーバート、K・ワイントロープ著 白木孝二監訳 2019 星和書店

アクセス地図です。



名古屋市交通局、地下鉄路線図へのショートカット

http://www.kotsu.city.nagoya.jp/dbps_data/material/_localhost/_res/subway/_res/pdf/subwaymap.pdf